日本産業技術史学会2018年度第3回理事会議事録

日時：2019年3月10日（日）　13：00　～　15:00

場所：竹中大工道具館会議室

出席者：石村眞一、亀井修、田中一郎、麓和善、天野雅敏、平野恭平、廣田義人、堀尾尚志、夏目賢一、井上尚之(年会実行委員長)

委任状：鈴木淳、馬渕浩一、市川浩

欠席：山田大隆、橋本毅彦、武藤夕佳里

報告

1.　本会運営の状況(財務)

廣田理事から資料に基づき、2018年度の収支状況について説明があった。3月7日現在、収入961,062円に対して、支出は208,084円となっているが、会誌の印刷および編集費用の請求がまだなく、これらで30万円ほど、さらに会誌発送費で数万円を支出する見込みであるとの説明があった。

会費納入状況については、会員134名のうち、2018年度まで完納109名(完納率81%)、1年未納16名、2～3年滞納4名、4～5年滞納3名、6年以上滞納2名との報告があり、当月発送の会誌に未納・滞納者への督促状を同封したとの説明があった。

2.　本会運営の状況について(会員の動向等)

廣田理事より現在の会員数は134名で、2018年の入会者13名、退会者9名、被除籍者2名で、2019年に入ってからは退会者2名、被除籍者2名で、2018年度末退会予定者が3名との説明があった。

3.　第32回学会賞の推薦結果

麓会長より、今回は学会賞その他各賞について推薦がなかったとの報告があった。優秀論文賞についても該当作がなかったことを確認した。

4.　会誌(冊子版)の編集及び発行予定について

　田中理事から、1月31日に『技術と文明』22巻1号を発行したこと、22巻2号については論文2点が掲載可、1点が査読中との報告があった。発刊にはもう1点原稿がほしいので書評を執筆してほしい、また投稿者が固定化する傾向にあるので幅広く周囲に投稿を勧めてほしいとの要望があった。

議事案件

1.　2019年度(第35回)年総会について

　井上実行委員長から資料に基づいて、6月15日(土)の年会、16日(日)の見学会のスケジュールについて提案があった。年会会場は神戸山手大学(神戸市営地下鉄「県庁前」すぐ)とし、シンポジウムと学会賞受賞講演に代えて、記念講演を竹中大工道具館にお願いしてみることとした。見学会は午前に酒心館(福寿の蔵元)、午後に竹中大工道具館とした。

2.　 『技術と文明』販売業務の担当について

思文閣出版が会誌の販売から手を引いたため、学会が書店に直接販売することになる。22巻1号については、廣田理事から書店に対して継続購入を打診中である。麓会長から次号以降の販売業務の担当者を募ったが、応募がなく継続審議とした。

3.　組織拡大について

　前回の理事会に引き続いて、意見交換した。

一般参加できるイベントを開催する。産業技術記念館、島津製作所創業記念資料館にも協力してもらい、講師や団体には会員になってもらう。

理事会の時に軽い談話会、勉強会、講演会を開催し、学生、院生にも参加してもらい、学会のPRもする。

年会を他の小規模類縁学会と同じ日に同じ場所で開催し、相互交流する。担い手が限られる中で、今後、科学史学会、STS学会などとコンソーシアムを組むのは避けられない。

他学会とのコンソーシアムはむずかしい。

しおりなど学会PRグッズを配布して、知名度を上げる。